

北極大陸

ARCTIC CONTINENT

2015.JUN

7

無料
FREE

不死の宴
栗林元

わが手は翼 われは鳥
弾射音

機械恐竜現る! の作り方
murbo

序

（三）常闇の系譜

「さんけん前」のバス停は湖岸道を集落の側に少し登ったところにあった。朝の光の中、バスはゆっくりと諏訪湖畔を走ってきた。

原油の輸人が止まるかもしれないという

非常時である。

続きを読む

不死の宴

栗林元

Kuribayashi Hajime

機械恐竜現る!の作り方

第7回

アイアンザウルス ヴァルゼルヴァ

続きを読む

murbo

弾射音

Dan Shannon

7

わが手は翼
われは鳥



ひどく長い
四十五分がやつと
おわると、信也より
さきに哲郎のほうから
近づいてきた。
哲郎はだまっただまま
信也のひじをつかんで廊下へ
ひっぱっていった。
「こんどはおまえの番だぜ」

続きを読む



薔薇の刺青
栗林元

発売中!



<http://www.amazon.co.jp/dp/B00RQ5LMQ8>



パッチワールド
弾射音

発売中!



<http://www.amazon.co.jp/dp/B00O5WSU7E>

ひどく長い四十五分がやっとおわると、信也よりさきに哲郎のほうから近づいてきた。哲郎はだまっていたま信也のひじをつかんで廊下へひっぱっていった。

「こんどはおまえの番だよ」

哲郎はにやにや笑いながら信也の顔と足もとを交互に見た。信也はどきどきしてくちびるをなめながら身がまえた。全身に力がこもってかちかちになった。

だが、そこで大事なことを思い出した。

「きょうから給食当番なんだよ」

哲郎は笑うのをやめて少しむっとした。

「すぐすむさ。やってみなよ。給食はそれから取りにいきやいいんだよ」

「だって……」

信也はためらいながら教室の窓をふりかえった。ほかの当番の子たちはもう白い三角巾とエプロンをつけてはじめている。

「かまわないよ。やれつてば！」

哲郎は信也の背中を平手で力いっばいどやしつけた。思わず前へよろけながら信也が見上げると、哲郎は目をつり上げて信也をにらみつけていた。

「わ、わかったよ」

信也は足踏みをはじめた。最初はしぶしぶだったが、そのうちに夢中になり、全身の力が二本の脚に集中し、ひざが高く上がり、スピードが上がった。

「もっと早く！」

哲郎が叫んだ。信也はさらにスピードを上げた。両脚が痛くなり、ひたいから汗がふき出した。気のせいか床が少しやわらかく感じられるようになる。

ふと足もとに目を落とした。

足の裏がかすかに床からはなれていた。

「その調子その調子！」

哲郎が手を打ってはやしたてた。信也はさらにスピードを上げた。もう限界に近い。足は床からどんでんはなれ、からだかゆつくりと浮かび上がっていった。

「空気の上に寝るんだよ、はやく！」

信也は足踏みをやめ、とっさに両腕を前へ投げ出した。からだか横にぐらりと揺れて落っこちそうになったが、あやういところで空中に腹ばいになった。床からわずか三十センチの高さだ。

「すぐに手で空気をかかきなさい！」

哲郎のいうままに、信也は両腕をまっすぐに伸ばして前方の空気をかき分けた。ふらつきながら少し前進する。からだかとても不安定でひどくおっつかかった。



弾射音 Dan Shannon

落ちまいとして必死に空気をかく。やりかたがまずいか、少しか前に進まない上、どんでん下さがつていく。

「もっとなめらかにやるんだよ。ドジだなあ」

そんなことを言われても、無我夢中だからちっともなおらない。腹が廊下の床につきそうになり、信也はあわててひっこめた。

「斜め上にかけてよ」

信也は死にものぐるいだからだを反らし、上のほうへ両腕をまわした。

少しずつだが、上昇していく。

やっているうちに、スムーズに前へ出られるようになり、高さもゆつくりと上がっていった。

やがて、頭と背中がほとんど天井に届きそうになる。スピードも上がって、ゆつくり走っているのと同じくらいになる。そうなるあたりはかんたんだった。すつかりうれしくなって、信也はときどき天井

に手をふれながら、廊下をどんでん進んでいった。うしろで同じクラスの女の子が自分呼んだような気がしたが、信也はふり返らなかった。

スピードを落とさずに角を曲がる。

きゆうに先生があらわれた。

ぶつかりそうになり、あわててよけた拍子にバランスを失い、信也は床へいっつきに落ちて、お尻をしたたか打ちつけた。

「こちら廊下を走っちゃいかん！ぶつかったらどうするんだ」

顔をしかめて尻をさすっている信也を、先生がすごい顔をしてにらみおろしていた。

「ご、ごめんなさい」

「なんだ、きょうから給食当番じゃないか。それなのに遊びまわっていたのか」

「い、いま行きます！」

信也はあわてて立ち上がり、いちもくさんに教室へかけもどった。

走りながら、信也はふと気がついた。

先生にはぼくが空を飛んでいたのが見えなかったのだろうか。

それにしても、走るのがこんなにもどかしいものだとは知らなかったと、信也は思った。

教室の前で、はたと立ち止まる。

もぬけのからだった。

みんな、きゆうに消えてなくなったみたいだ。

教室からざわめきがただよってきた。

信也は窓にかけよった。

青空のキャンパスの上を、哲郎が鳥のように優雅に舞っていた。

哲郎は信也に気づき、ニヤツと笑って手まねきした。

信也は窓わくをまたいで外へ出た。

校庭には生徒たちがあふれていた。

ひとりのこらずけんめいに足踏みをしていた。みんな、クツをはいておらず、はだしだった。

すでに浮上しはじめた子どももいる。

見ているうちに、あちらでひとり、こちらでひとり、つぎつぎに浮かび上がりははじめた。

信也が上から叫んだ。

「もつと強く！」

何百人もの生徒たちの足音がいつせいに大きくなった。地面がゆれはじめたくらいだった。

哲郎がふたたび信也のほうを向き、からだをひねって一回転した。

「来いよ！」

信也は夢中で足踏みをはじめた。

「なれたらもう足踏みなんかしなくてもいいんだよ。思いっきり飛び上がってみなよ！」

信也は彼を見上げて足踏みをやめ、一瞬ためらった。

「なにしてんだよ。ほらー！」

哲郎は両手をふり上げてうながした。

信也はからだを深く屈伸させて力いっぱいジャンプした。

からだがそのまま宙に浮いた。

哲郎は拍手をして、からだをそらしながらさらに上昇し、一回転した。

信也は両腕でひししに空気をかいて、哲郎のところへたどりつこうとした。

しかし、地面から五メートルぐらいのところまでが限界だった。それ以上はどうしてもだめだった。

下を見ると、もう生徒たちの半数近くが浮かび上がりはじめている。男の子も、女の子も、きやつきやつと声を上げながら、ゆっくりと、あぶなつかしげに上がってくる。

ふと、信也の目が、職員室のあるあたりにいった。

クツをはいた先生たちが、競馬の馬のようにいつせいにかけ出してくる。

「みんな、やめなさい！」

メガネをかけた女の先生が上へ向かって叫んだ。

男の先生たちが生徒たちのあいだをぬって走りまわって、足踏みをやめさせたり、やつと浮かび上がりはじめての子をひきずりおろしたりしはじめた。

信也は上を向いて叫んだ。

「そこまで行けないよ！」

哲郎が叫び返した。

「呪文をとるんだよ！」

「なんて？」

「ワガテハツバサワレハトリワガテハツバサワレハトリ」

信也は言われたとおりにやってみた。

ワガテハツバサワレハトリ
ワガテハツバサワレハトリ
ワガテハツバサワレハトリ

「だめだよ！」

信也は泣きそうになってふたたび叫んだ。

「もつとなんべんもとなえるんだよ！」

哲郎の顔はしんけんで、目が血ばしっていた。

「心をこめて、なんべんも、なんべんも、うまくいくまでとなえるんだよ！」

信也はもう一度やってみた。

「だめだよ！どうしてもできないよ！」

「やるんだ！」

哲郎の叫びは泣き声に変わった。目からはもう涙

がこぼれている。

「いまやらないと、二度とできなくなるぞ！」

信也も泣いた。

「下りてきてよ！」

「だめだよ！もうもどれないんだよ！」

哲郎は、上空にとどまって信也を見まもった。

信也は空中で足をけり、でたらめに両腕をふりまわしてけんめいに上昇しようとした。

だがやはりだめだった。

あきらめたのか、哲郎は信也を見おろすのをやめて、上昇しはじめた。



続く

不死の宴

第五回 常闇の系譜

白さもまぶしい真新しい門柱が作られていた。門柱と一体化した守衛所がまるでトーチカのような物々しさを訪問者ににらみを利かせている。

守衛所の窓口には陸軍の制服を着た兵がいた。如月は腕に持った上着の内ポケットから許可証を取り出し兵に示した。昨日、守矢竜之介少尉から渡されたものだった。

「如月先生、お話は聞いてますよ」

兵はそう言うのと、守衛所の奥に「先生が見えたよ」と大きく声をかけ、「ご案内させますのでお待ちください」と言った。

裏でドアが開く音がし、軽快な足音がすると、守衛所を回って軍服を着た娘が現れた。

「先生、ご案内します」と言うと、ピッと体を反らして気をつけをし、「研究所職員の守矢みどりです」と叫ぶような元気の良さで腰から体を前に折ってお辞儀をした。

髪は開戦前の少年の様に短く切っている。はつきりした顔立ちの中で大きな瞳がぐるぐるときよく動き何とも活発な印象だ。よく見ると軍服ではなく、男子学生が着るのと同じ国民服を着ている。ただ、腰をベルトできりりと締めつけて、足下は布のゲートル（脚絆）ではなく乗馬用の長靴を履いていた。それだけで、この娘だといざいぶん洒脱な印象だ。

「如月一心です、と自己紹介をして、「みどりさん、守矢というお名前だと、」

「はい、少尉の妹です、でも軍人ではありません、って当然か、女だし」と言うと、大きく口を開けて男の子のよ

前回までのあらすじ

昭和十八年九月。理化学研究所の如月一心は陸軍の招聘で「三号」と呼ばれる極秘計画に加わるために長野県上諏訪町を訪れた。出迎えたのは登戸研究所諏訪分室の守矢竜之介少尉である。如月を宿に送った、その直後、分室では研究の被験者であった近藤上等兵が蘇生とともに獣化し人狼となっていた。竜之介は近藤を殺したが、近藤に神降ろしをした姫巫女・美沙は眷属を失った痛みを感じるのであった。

「さんけん前」のバス停は湖岸道を集落の側に少し登ったところにあった。朝の光の中、バスはゆっくりと諏訪湖畔を走ってきた。

原油の輸入が止まるかもしれないという非常時である。諏訪乗合バスも木炭エンジンで後部に大きな釜を積んでいる。ゆっくりとしか走れないのだ。実質十馬力強のエンジンで、緩やかな坂でもバスは青息吐息で今にも止まりそうだった。

昨夜、湖月荘の主人に「さんけん」とは地名なのかと聞くと、昭和の初めまで「蚕業研究所」つまり蚕研があった場所なので「さんけん前」なのだを教えてくれた。

そのバス停まで、木炭バスはのろのろと登っ、い、き、如月を降ろすと同時に、ついに使命を果たし終えたと

でもいのようにエンジンが止まってしまった。乗客は如月が一人しかいなかったの、車掌は苦笑いをして肩をすくめると、運転士に一声かけて火かき棒を掴むとバスの後部の釜に向かった。木炭をならして熱を均等にするわけである。

バスの燃料すら木炭に頼っているようでは、この戦争はどうなるのだろうかと思った。バスを押しして坂を登らずにすんだだけ幸運だったかもしれない。

諏訪分室は、その蚕業研究所を併設した紡績工場の施設を接収したものだと言っていた。バス停からさらに登り道になっている。諏訪湖は降雨時にはしばしば水位があがって氾濫したそう、昭和七年にも大きな水害があったという。現在は釜口水門ができて天竜川にうまく水を流せるようになったので、以前ほど氾濫することはなくなったと宿の主人は言っていた。

研究所はかなり湖水面より高い位置にあるのである。如月は上着を脱いで鞆と一緒に腕に抱え、ズボンの尻ポケットからハンカチを出すと額に浮かんだ汗を拭いた。明日からは、研究所の申し出に甘えて迎えにきてもらおうかと思った。

陸軍第九研究所諏訪分室は赤煉瓦の塙に囲まれていた。門も同様の赤煉瓦で、明治の日本を支えた紡績業の歴史を感じさせる。そのすぐ内側にコンクリートの

うに、はははっ、と笑った。

如月も思わずつられて笑い出す。そして、すっかりこの娘が好きになっていくことに気づいた。

みどりは如月の視線に気づくと、頬を押さえて少し照れくさそうに視線をはずし、姿勢を正すと「こちらです」と言って歩き出した。

みどりは、黙って如月の前をどンドンと歩いていく。よく鍛えられた体で、服を通してその動きに運動神経の良さが見てとれた。

ロータリーになった車寄せの正面玄関を入った。

「こちらが本館棟。管理部門がこちらの建物です」

吹き抜けになった玄関ホールは三階まで吹き抜けになっていて、その中央に大きな階段があった。みどりはその階段を上っていく。凝った意匠の階段で外国映画の中で洋装の貴婦人が舞踏会に行くために降りてくるような階段であった。明治の日本を牽引した蚕業の財力を示す建物である。

二階の廊下を歩いていき、大きな木の扉の前に来る

と、みどりは「こちらです」と言って扉を開け如月を招き入れた。

部屋は会議室だった。正面の壁に映写用の白いスクリーンが下がっている。中央にはスクリーンに向かって十六ミリの映写機がセットされていた。その映写機の左右に椅子が四つ用意されていた。

「先生をお連れしました」とみどりが言った先に守矢童之介と守矢公彦、もう一人、四十代後半と思いき軍人がいた。軍人には珍しく、おどおどと気の弱そうな男である。

男は、「所長の菅原です」と名乗った。如月が頭を下げると、菅原は、大東亜共栄圏から欧米の白人支配を排除する聖戦遂行のためにも日本は負けるわけにはいきません、ついでには民間人の如月先生にもその学識と研究でご協力をお願いしたい、と言う内容をむにゃむにゃと言った。

菅原は、上諏訪町の駐屯地にて週に一回だけ、この研究所に顔を出すのだという。そして、今日も長居は

できないので戻りますと言うと、そそくさと席を立ち、「如月さん、よろしくお願ひしますよ」と軽く敬礼をすると、如月と守矢に目を合わせようとせず部屋を出ていった。

唾然として見送った如月とは対照的に、童之介はうすら笑いを浮かべながら、菅原さんのお気持ちもわからんでもないですよ、と言った。どうやらいつものことらしいとうかがえた。そして、如月を正面から見据えると、「ミ号計画についてご説明いたします」と言った。

公彦は会議室のカーテンを閉め灯りを消すと映写機の後ろに座った。童之介はスクリーンわきに立った。

カタカタと映写機が回り、スクリーンには「三、二、一」と数字が映った。まず現れたのは、体育館らしき建物の中だった。画面の中央に白い体操着の人物が映っていた。顔には剣道の面に似た防具をつけ、両手には拳闘のグローブに似た籠手を着けていた。

「ミシャグチの力を得た人間の身体能力を記録した映画です」と童之介が言った。

不死の宴 続く

この物語はフィクションであり登場する地名・人名・企業名はすべて架空のものである。

機械魂現る!

の作り方

第7

回

アイアンザウルス

ヴァルゼルヴァ



【アイアンザウルス】

科学宇宙研究所の博物館の恐竜の化石をアイアンモンスター化した。強固な防御力と粘りのある馬力で、周囲を破壊する。

1G下では重装甲が災いして瞬発力に欠ける。恐竜の化石を基にしているために肉にあたる部分が少なく、見かけ上の重量感は少ない。武装は両腕のアイアンクローと口の重光波電磁砲、尻尾の光波粒子機関砲。

日本の科学宇宙研究所の博物館以外の化石の存在する場所でもアイアンザウルスは発生し、その元になった化石の状態により形態は異なる。

このオレンジ色の個体は骨格は多くは揃っていたものの、粉かな傷や欠損があり、それがアイアンモンスターとして形成された時に表面の塗装の破損として表現された。また地球上では埃や塵なども自然に存在するために完全な状態でアイアンモンスター化されることはまれである。





【アイアンナックル】

破壊専用。対象を殴りつけることで破壊する。親指に相当する部分も利用して物体を掴み、引きちぎる事も可能。

動物の歯に相当する部分は重光波電磁砲を保護するとともに、噛み付く武器になる。



レーザーマシンガン 【光波粒子機関砲】

尻尾に相当する部分の終端に装備する破壊光線砲。

独立した専用ジェネレーターから高密度発光粒子をパルス状に発射する。照準については視覚と連動せず、視覚とは別のシステムで運用される。



ヘビーメーザーキャン
【重光波電磁砲】

動物の口に相当する部分に装備する破壊光線砲。
体内のアイアンコアからの高圧マイクロ波を圧縮し、目標に発
射する。マイクロ波を圧縮し発射までのタイムラグが弱点。発
射時は体内のアイアンコアも発光する。直進性が強く、接触し
たものを叩き割るように破壊する。これが当たった結果として
爆発することはなく、爆発する条件があった場合に爆発する。

■スペック

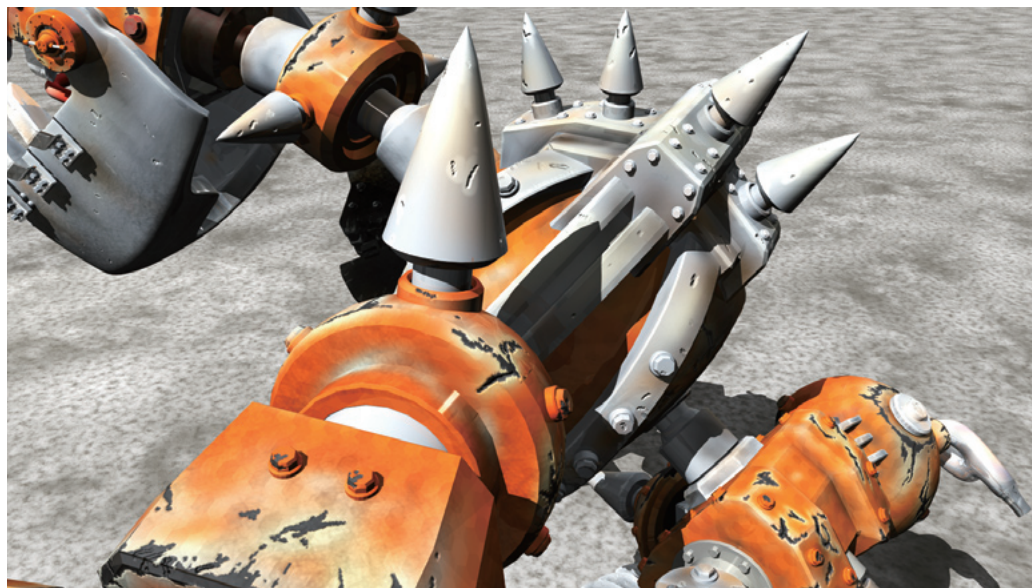
全長／18m

体重／11.6t

武装／アイアンナックル x2

ヘビーメーザーキャン
重光波電磁砲 x1

レーザーマシンガン
光波粒子機関砲 x1



パッチワールド

人格シミュレーションとなった村田は独自の理論を実証するため、恒星間宇宙船を乗り取りヒアデス星団で実験を再開する。地球を破壊した謎の結晶体による地球再生の可能性を突き止める。……クリス・ボイスの名作『キャッチワールド』へのオマージュ。第一回 SF 新人賞候補作を加筆。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00O5WSU7E>



クラフトロン 弾射音短編集 SF 編

「クラフトロン」…夫のテリーは旅先の地球で他の観光客もともととも消息を絶ち、私は軍人として捜索を命じられる。変異に地球は飲み込まれ、私はついにテリーの真実を知る……。他三篇。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MP4I8JE>



今度、死ぬことになった 弾射音短編集 ミステリ編

「今度、死ぬことになった」…私は大学時代の友人から、「今度、死ぬことになった」という文面の手紙を受け取る。そして死んだ。彼は恨みを持つ女のマンションに爆弾を仕掛けたと遺言を残す。……他二篇

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MOZXM22>



理由なき朝食 弾射音ショートショート集 Vol.1

夜中の三時、ママはぼくをいきなり起こす。真顔で朝食を食べなさいと言うのだ。パパとお姉ちゃんはパニックだ。そのうちに、みんなは泣きながら真夜中の朝食を始める……。他 24 編

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MUQJGT8>



ぱおにゃん？ 弾射音ショートショート集 Vol.2

暇だったので、象と猫のハイブリッドを作ってしまった。巨大な象猫は元気に「ぱおにゃん！」と鳴く。妻は今すぐ捨ててきなさいと言う。ぼくはいったいどうしたらいいのだろうか？……他 24 編

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MW4ZC78>



デイズ・オヴ・ホミサイド

殺人者が犯罪ではない近未来。簡単に殺し合う人々。加藤芳雄はある日、吉田美枝子を地下鉄内で殺す。政府のコンピューター内に蘇った吉田美枝子は、逆に芳雄を殺そうと反撃に打って出る。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MKDQSLA>



彼女の手の中のバービー

彼女はいきなり僕の顔に化粧をした。僕は彼女の手で、どんどん女になっていく――美人女子大生と女装少年の、奇妙な愛のかたち。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00GWY6ISQ>



レイルウェイ、ターミナル、そして故郷へ

僕は栢桶職人。ある日、大変なことに気づいてしまう。いどうるが手許にないのだ。人は、いどうるなしでは人は生きていけない。僕は、いどうるを取り戻すため、故郷へ向かって旅を始める。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MKCJPR0>



栗林元既刊本

薔薇の刺青（タトゥー） / 自転車の夏

日本人と結婚して永住権を手にしたマリアンは、どこへ消えたのか。昭和六十年の名古屋市を舞台に、外人タレントプロダクション、偽装結婚、など、裏社会を描いたハードボイルド作品。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00RQ5LMQ8>



神様の立候補 / ヒーローで行こう！

西本は広告会社の営業。彼に下された使命は、新聞用選挙広告を法定回数五回分を全て東海新聞の扱いで獲得すること。ところがその候補者は、「龍神様のお告げで立候補を決意した」というおぼあちゃんだっただの。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00IB9F4OE>



1988 獣の歌 / 他 1 編

気がつくと、「獣」は新生児の心の中にいた。今まさに殺されようという瞬間だった。間一髪、肉体から抜け出した獣は、少女の心に飛び込んでいた。しかし無理な跳躍で、多くの記憶を喪失してしまう。他 1 篇

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00KK5I61U>



盂蘭盆会●●●参り（うらばんえふせじまいり） 他 2 編

18歳を目前にした仁は「明日のお参りにはお前も来なさい」と、父から告げられる。話によれば長男は兄弟の中でも比較的早く「お参り」に連れていかれるのだという。果たしてそのお参りとはどのようなものなのか。他 2 篇

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00NCD05MK>



murbo 既刊本

宇宙キッド 怪獣図鑑 魔人ゴース編

架空の連続 TV アニメーションである、宇宙キッドに登場する敵怪獣などをカード風のレイアウトで紹介する図鑑。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00EM4ST80>



宇宙キッド 怪獣図鑑 ドーモル団編

架空の TV アニメ、宇宙キッドに登場する敵怪獣のカード風のデザインで紹介する図鑑。第二巻

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00F0CFGVQ>



戦え！宇宙キッド 怪獣図鑑 超電子頭脳ズレイノウン編

架空の TV アニメ、宇宙キッドの敵メカ怪獣をカード風で紹介した図鑑。第三巻

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00HRW3ELG>



一枠 55mm x 55mm。
一回料金 1,000 円
年契約 10,000 円
240dpi 以上の解像度、
cmyk モードの
psd フォーマットのみ受付けて
います。
詳細と受付は
denpub@1001sec.com へ。

